

医師と理学療法士が連携し、
患者の症状に応じたきめ細かな
運動療法を実施。

川島整形外科病院

全身の姿勢、動作に 着目した運動療法

変形性膝関節症や変形性股関節症は、痛みのため歩行姿勢が悪くなったり、歩けなくなるなど、日常生活に支障をきたす。

永芳郁文診療部長は「治療方法には、リハビリ（運動療法）や薬などの保存的療法と、手術がありますが、当院では特に運動療法に重点を置いているのが特長です。医師と理学療法士が互いに協力し、



リハビリ室。同院の提供するリハ時間は全国水準を上回る

第2種高気圧治療装置（多人数用と内部）

川島整形外科病院は、「蘭学の里」として知られ、福沢諭吉の故郷でもある大分県中津市にあり、地域に根差した世界水準の医療を提供する。先進の高気圧酸素治療や骨髄炎治療においては世界屈指の研究、治療実績を誇る同院。人工関節分野においても患者にやさしい、至誠の医療を心がけている。



先進医療レポート

グッドクター
GooDr.
選ばれる病院



第一診療部長
永芳 郁文

ながよ・いくふみ／大分医科大学卒業後、同大学附属病院整形外科入局、助手を務め、平成5年～平成6年米国Rush大学 Pres.St.Luc.Med.Center留学等を経て平成9年川島整形外科病院勤務。日本整形外科学会認定整形外科専門医。日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医。日本高気圧環境医学会情報委員。大分人工関節研究会幹事。日本人工関節学会会員。日本骨関節感染症学会会員

密な連携をはかりながら、患者さんの状態に応じたリハビリプログラムを作成し、指導しています」と話す。

変形性股関節症では、外転筋力など股関節周囲の筋力強化だけでは痛みが軽減せず、跛行や日常生活の動作が改善しないケースはよくある。

「同じレントゲン画像でも痛みの程度は各々違います。疼痛のある部位の可動域や筋力強化といった局所的アプローチだけではなく、患者さんの身体をトータルでみて、姿勢や動作、バランスを改善するためのきめ細かな運動訓練を行うことが大切なのです」。

分かりやすく言えば、膝や股関節の痛みをかばうことで可動域が狭くなり、身体他の部位も歪んで痛い状態が保たれてしまう。しかし、身体全体で正しい姿勢、動作ができるよう訓練を積み重ね、他の機能低下した部位もほぐれ、その結果、痛みが軽減、歩行改善へ

と繋がっていく。画像による診断で「手術が必要」と他院で診断された患者が、こうした運動療法によって、手術せずに症状が軽減したという例は多々あるという。

人工関節置換手術は最後の選択肢

「あらゆる保存的治療を試みても症状が改善しない場合、最後の選択肢として、人工関節置換術を提案します」（永芳診療部長）。

同院での2010年の手術件数は、人工股関節手術が13件、人工膝関節手術が36件、関節の一部のみを入れ替える人工骨頭挿入術が37件。

「素材や耐久年数について、海外の医療機関とも情報交換しながら徹底的に研究、吟味を重ね、安全性が高い最善のものを選びます。また運動療法と手術的治療がバランスよく調和していくことが重要と思われます」と永芳診療部長は

話す。術前から身体の正しい動き方などを運動療法で体得できていれば、術後のリハビリがスムーズに行える上、回復も早い。通常、術後2日目には起立歩行の訓練を開始、入院期間は約3週間という。

「患者さんとは数年にわたるおつきあいとなりますが、モチベーションを維持して頂くため、症状が回復していると患者さんが実感できるようリハビリを心がけています。痛みがなくなっていくと患者さんの表情が明るくなります。そういう姿を見るのは何よりの喜びです。歩く姿がよくなり日常生活への支障がなくなる日までに、一人一人、きっちり向き合っ

りて参ります」。

Hospital Data	
医療法人玄真堂	川島整形外科病院
所在地	大分県中津市宮内14-1
電話	0979-24-0464
URL	http://www.coara.or.jp/~gensin/
診療科目	脳神経外科 (整形外科は、かわしまクリニックへ)